

委託事業実施内容報告書

平成20年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
「日本語能力を有する外国人を対象とした日本語指導者養成」

受託団体名 特定非営利活動法人 外国人の子どものための勉強会

1. 事業の主旨・目的

千葉県内でも、外国人の日本語指導者が多く活躍している。しかし、これら外国人指導者が指導のための情報を得たり、お互いが情報交換をする場はない。この課題に対応し研修を行い、外国人の日本語指導者を育成する。

2. 企画委員会の開催について

企画委員会

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議概要
第1回 20年11月14日 13:30～15:30	千葉県総合教育センター	海老名みさ子 横山解子 三井研一	・研修内容の検討 ・広報について	・研修日時・講師・定員の決定 ・広報分担を決める
第2回 20年12月1日 13:00～15:00	千葉県総合教育センター	海老名みさ子 横山解子 三井研一 金早苗	・研修内容広報の詳細検討 ・全9回のうち第1回の詰め	・講師・見学の確認 ・広報の詳細分担を決める ・研修時の委員分担を決める
第3回 21年1月10日 16:00～18:00	松戸市民劇場	海老名みさ子 横山解子 三井研一 金早苗	・第1回研修を終え、今後の進め方を考える	・グループディスカッションを充実させるための方策など
第4回 21年3月1日 16:00～18:00	松戸市民会館	海老名みさ子 横山解子 三井研一 金早苗	・全研修を終え振り返り	・有意義な研修であった。参加者がこれを活かし活動してもらう方法を継続して考える

* 企画委員会会議風景の写真添付



3. 研修講座の内容について

(1) 研修講座名 外国人の日本語指導者研修

(2) 研修の目標

年少者に対する日本語指導における外国人指導者と日本人指導者の指導内容の違いに着目し、外国人指導者ならではの指導力のアップをはかる。

(3) 受講者の総数 44人

(4) 開催時間数(回数) 18時間(9回)

(5) 参加対象者の要件 日本語能力を有する外国人

(6) 受講者の募集方法

①県や市教育委員会②国際交流協会③地域の日本語教室、ボランティアグループ④大学留学生センターを通して募集

* 募集のちらしを添付

(7) 研修会場

講義は松戸市民劇場、市民会館。

見学・ワークショップ会場は公立中学校(市川第7中学校)とNPO(たぶんかフリースクールと子どもLAMP)教室

(8) 使用した教材・リソース

全てレジメと資料を使用。パワーポイント、DVDの使用(3回)

(9)講座内容

回 (※)	日時	研修内容	受講者数	講師	役職
①	1月10日 13:30～15:30	外国人指導者の役目 —日本語・教科指導を中心に—	37人	井上恵子	千葉県教育委員会委託 研究員・相談員
②	1月14日 14:00～16:00	見学 外国人生徒のための日本語 教室	21人	市川市立 第7中学校	レインボー クラス
③	1月24日 13:30～15:30	小学校での日本語指導	26人	陳麗恵	三鷹市すだ ち学級 日本語指導 講師
④	2月1日 13:30～15:30	外国人指導者の役目 —子どもたちの心を支える—	24人	田中ネリ	千葉メンタルク リニック 臨床心理士
⑤	2月7日 13:30～15:30	外国人中学生の課題 —進路を中心に—	22人	王慧瑾	多文化共生セン ター東京 代表
⑥	2月12日 13:00～15:00	見学 NPO法人多文化共生センター 東京・たぶんかフリースクール	13人	たぶんかフ リースクー ル	昼クラス
⑦	2月22日 13:30～15:30	母語&日本語 —双方の力をつける—	22人	清田淳子	お茶の水女 子大学 非常勤講師
⑧	2月26日 14:00～16:00	見学・ワークショップ NPO法人 子どもLAMP	12人	子どもLAMP	会場 文京シビック ホール
⑨	3月1日 13:30～15:30	漢字大好き！ —苦手な漢字をどう教えるか—	25人	金早苗	国際日本語 普及協会日 本語指導者

(10)講座の評価

①受講生に対するアンケート

毎回、アンケート用紙を配布し、「今日、参加しての感想、質問など」を書いてもらった。研修は幅広く外国人の子どもが日本の学校に入った時の課題に沿って行ったので、満足したという声が多かった。

②実施主体からの研修内容結果評価

講師には外国の方を多くお願いし、毎回前半は講義を聞き、後半は受講者のディスカッションとした。具体的な日本語指導法より、外国人の子どものおかれた現状を知り、その上で指導者としての心構えを養成することを目指したが成功したと考える。

③実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

優秀な外国人の日本語指導者は多い。今後はネットワークを作り共に支援を行っていきたい。

(11)事業の成果

(ア)他事業との連携

日本語講師養成講座を開催中の団体、外国人の日本語指導者を学校に入れている教育委員会、地域のボランティア教室との繋がりが出来た。

(イ)研修後の人材活用

各地の教育委員会、国際交流協会、地域の日本語教室などに、受講生を紹介する。

(12)今後の課題

日本語指導者として活動していくには、常にレベルアップを考えたり情報交換が必要になる。それができるような体制を作らなくてはならない。